

平成19年度に実施された事業の結果報告及び今後の方向性(概要)

※本ページは各事務事業の概要紹介と19年度の報告を目的としています。評価の詳細については次ページをご覧ください。

事業名	乳幼児発育・発達相談事業	所管	保健福祉部 母子保健課
			TEL 2991-1811

事業の目的 (何の為に 行うか)	児童虐待の予防・早期発見・早期対応として育児不安の強い母親への支援を行い、より専門性の高い相談を充実させることにより、育児不安の軽減及び家庭における育児機能の修復を図り、子どもの心身の安らかな発育・発達を促進するとともに、人間形成の基盤となる乳幼児期の母子関係を確立することを目的とする。
------------------------	--

対象 (誰を、何を 対象としているか)	乳幼児健康診査・乳幼児健康相談等の事業や母子保健課にて二次指導している方で、発育・発達及び育児環境又は母子関係において、より専門職による相談を必要とする乳幼児と保護者	対象とした数	1,035	人
		実際に 利用した数	239	人

活動の内容	(何を したか)	1. 発育・発達相談……①小児科医師による医師相談、②臨床心理士による心理相談(発達検査)、③言語聴覚士によることばの相談、④作業療法士による運動あそびの相談 (年12回) 2. MCG(母と子の関係を考える会)……母がゆっくりと話ができるように、児の保育を行い、臨床心理士が中心となり、グループミーティングを行う。 3. 子育てメンタル相談……精神科医師(6回)・臨床心理士(6回)による個別相談。								
	活動実績	項目名	実施回数	70	項目名	参加者数	239	項目名		単位
				----- 単位 回			----- 単位 人			----- 単位

経費 (どれだけか かったか)	当初予算額(千円)	決算額(千円)	事業費合計(千円) ※人件費・公債費を含む	市民一人当たり単価(円)
	2,458	2,325	10,780	31.8

成果 (結果として どうなった か)	成果指標名	説明 (計算方法等)	目標値	実績	達成率
	参加率	参加者数÷対象人数×100	30	23.1	77.0
			----- 単位	----- 単位	----- 単位 %

今後の 方向性 (所管の意 見)	総合 評価	* 事業の継続 ⇒ 拡充 縮小 統合 * 改善・効率化 改善余地なし その他〔 〕	-----	終了 ⇒ 事業完了 終了 休止	-----
		終了 ⇒ 事業完了 終了 休止	-----	終了 ⇒ 事業完了 終了 休止	-----
	予算	* 現状どおり 増額 減額 終了	-----	* 現状どおり 増額 減額 終了	-----

今後の 方向性 (二次評価の 意見)	二次評価実施の有無 有り⇒下記評価へ * 無し⇒終了					
	総合 評価	拡充 縮小 統合 改善・効率化 改善余地なし その他〔 〕 終了	-----	-----	-----	-----
		現状どおり 増額 減額 終了	-----	現状どおり 増額 減額 終了	-----	現状どおり 増額 減額 終了

平成 20 年度事務事業評価表(一般用)

①事務事業名	事業コード 040810	乳幼児発育・発達相談事業	担当部課	部課コード 040800	画	2991-1811
開始年度	平成 14 年度	→	終了年度	平成 年度		
			グループ	母子保健グループ		

②事業の概要	事業の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> 法定受託+附加			根拠法令
	分野別計画・指針	所沢市次世代育成支援行動計画			母子保健法第9、第10条
	関連・類似事業	乳幼児健康相談、乳幼児健康診査			
	総合計画の体系	政策	第3章 豊かな心で健やかに暮らせる支え合いのまち	施策	6節 保健・医療
			中柱	2 生涯を通じた健康づくりの推進	小柱
	H19市民意識調査における施策の順位…43施策中 11 位		実施計画における位置づけ… H19 ○ H20 ○		
	行政改革大綱における行動計画への位置づけ				
	コード	1111	市民の知りたい情報の提供	コード	
	事業開始の背景	核家族化、少子化が進行し、家族システムの崩壊や近隣の関係の希薄などにより、家庭の育児機能が低下する中で、児童虐待や育児に孤立した親が抱える育児不安やストレスが深刻化している。こうした状況の中で、より専門性の高い相談を充実させることにより、児童虐待の予防や育児不安の軽減を図り、子どもの心身の安らかな発育・発達を促進するために実施された。			

③事業の内容	目的(何のために行うか、具体的に)	児童虐待の予防・早期発見・早期対応として育児不安の強い母親への支援を行い、より専門性の高い相談を充実させることにより、育児不安の軽減及び家庭における育児機能の修復を図り、子ども自身の安らかな発育・発達を促進するとともに、人間形成の基盤となる乳幼児期の母子関係を確立することを目的とする。				
	対象(誰を、何を対象としているのか)	利用数の考え方		事業に参加した人数(延べ)		
		対象数	単位	平成 18 年度	1,093	人
				平成 19 年度	1,035	人
		事業の具体的な内容及び実施方法				
	1. 発育・発達相談……①小児科医師による医師相談、②臨床心理士による心理相談(発達検査)、③言語聴覚士によることばの相談、④作業療法士による運動あそびの相談(年12回) 2. MQG(母と子の関係を考える会)……母がゆっくと話ができるように、児の保育を行い、臨床心理士が中心となり、グループミーティングを行う。 3. 子育てメンタル相談……精神科医師(6回)・臨床心理士(6回)による個別相談。					

④前年評価と改善点	平成19年度事務事業評価結果(平成20年度の方向性)	≪ 最終評価 <input type="checkbox"/> 一次評価 <input type="checkbox"/> 二次評価 ≫	
	総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の継続 ⇒ (<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 [])	
	予算	<input checked="" type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了	
	平成19年度中に改善した点		
	3. 子育てメンタル相談にて、年12回実施のうち、年6回は臨床心理士による相談を実施。母乳育児をしている母親にとっては、医師=薬の処方と抵抗感があったが、臨床心理士が女性と同性であったこともあり、抵抗は少なく、利用者が増加。		

⑤経費	《会計種別》	一般会計	平成 18 年度 (千円)	平成 19 年度 (千円)	平成 20 年度 (千円)
	当初予算		2,378	2,458	2,535
	決算(見込み含む)		2,079	2,325	
	(嘱託職員) (臨時職員)	(人) (人)	(人) (人)		
	正規職員人件費	0.90 人	8,280	0.90 人	8,455
	公費費				
	事業費合計		10,359	10,780	
	財源内訳	一般財源	10,359	10,780	2,535
		国・県支出金			
		受益者負担金			
	市債				
	その他				
	市民一人当たり(単位:円)	30.7	31.8		
	利用率一単位あたり(単位:円)	47,518.3	45,102.9		

⑥指標	項目名	計算方法	単位	H 18	H 19	H20見込み	将来目標
	実施回数	12回×6相談事業	回	64	70	72	
	参加者数	各事業参加延べ人数	人	218	239		
	参加率	参加者数÷対象人数×100	%	66.7	77.0		
	達成率		%	66.7	77.0		
成果分析	参加率	参加者数÷対象人数×100		目標値	30	30	
				実績	20	23.1	実績値の拡大を図る1
							実績値の縮小を図る2

⑦一次評価	評価項目	現状評価	評価項目	現状評価
	対象設定	事業の対象を見直す必要性	実施主体	現在の実施主体
		<input type="checkbox"/> 対象を絞る <input type="checkbox"/> 対象を拡大する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの必要性なし	市	見直しの必要性
			<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
	他事業との整理・統合	類似・関連事業などとの整理・統合	受益と負担の関係	受益者負担の有無
	<input type="checkbox"/> 統合する <input type="checkbox"/> 連携する <input checked="" type="checkbox"/> 類似事業がない <input type="checkbox"/> 統合等必要なし	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
	明らかとなった課題	発育・発達への不安を抱えている親の育児負担が大きく、孤立化している環境の中で、専門職による的確な相談。継続した二次指導を実施していくため、更に事業を推進させていく。		
	今期目標項目(何を)	達成水準(どこまで)	時期(いつまで)	
	平成20年度における目標設定	母子保健課と関係の強い子ども支援課・保育課に本事業の理解を深める。	子ども支援課との調整会議にて、本事業の現状と問題点を探る。	平成21年3月
	平成21年度における事業の方向性			
	総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の継続 ⇒ (<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 [])		
	予算	<input checked="" type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了		
	評価理由	専門相談により、虐待のハイリスクである発育・発達上の問題点がある子どもに対する育児不安が軽減されることにより、乳幼児の健全な発育・発達が促進されるものと考えられる。また、本事業の影響は、乳幼児時期だけに限らず、母子関係の確立により、思春期における諸問題を未然に防ぐための一助となる。		
	評価日	平成20年5月2日	記入者職氏名	母子保健課長 小林 昌治

⑧二次評価	一次評価を受けて	平成21年度における事業の方向性		
	総合評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 [] <input type="checkbox"/> 終了		
	予算	<input type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了		
	評価理由			
	評価日			
年度用事前評価	部内優先順位… 位	非常に高い 高い やや低い 低い	優先度評価	<input type="checkbox"/> A:優先的に資源配分をするべきと評価する事務事業
	見込まれる貢献度	総合計画上位目標 市長マニフェスト		<input type="checkbox"/> B:重要であり引き続き実施すべきと評価する事務事業
	評価理由			<input type="checkbox"/> C:現状での実施は見送るべきと評価する事務事業
	評価日			

⑨個別計画における方向性	◎環境基本計画	本事業の左記計画における位置づけ… 無し	計画コード	
	施策の体系		施策の方向	
	◎次世代育成支援行動計画	本事業の左記計画における位置づけ… 有り	計画コード	1171
	基本目標	子どもたちがたくましく生きていくための力を伸ばします		
	主要課題	子どもたちの知識・能力の育成		
	施策の方向	7食育の推進		